

日本科学未来館をたずねて

大武逞伯

再版



日本科学未来館は、東京お台場にあり、先端科学技術を伝える貴重なそしてユニークな国立の科学館です。館長は宇宙飛行士の毛利衛さんは2000年にエクアドルのキトを訪問（写真右下）され、HCJB 日本語放送にインタビュー出演されました。そのご縁で今回お邪魔する事が出来ました。未来館は、ガラス張りのモダンな建物で、1階、3階、5階が展示場になっています。1階はシンボル展示 Geo-Cosmos が頭上に浮かぶシンボルゾーンと、企画展などが行なわれる企画展示ゾーン、ミュージアムショップのフロアです。Geo-Cosmos(ジオ・コスモス)は、1000万画素を超える高解像度で、宇宙空間に輝く地球の姿をリアルに映し出す、日本科学未来館のシンボル展示です。有機ELパネルを使った世界初の地球ディスプレイで、宇宙飛行士

が「宇宙から見た輝く地球の姿」を実感できる貴重な展示です。3階は、常設展示「未来をつくる」のフロアです。5階へはオーバルブリッジ（回廊）でつながっています。5階は、常設展示「世界をさぐる」のフロアです。今回は、科学コミュニケーターの田端萌子さんの案内で3階の展示から見学をしました。3階は、「これから先、私たちはどんな方法で豊かさを築いていけばいいのでしょうか？」私たちが望む社会や暮らしのかたちを描きだし、その夢がどんなアイディアによって実現されるか」を考えるゾーンです。3階の目玉の一つは二足歩行ロボット「ASIMO」の実演です。14時からの実演を見学しましたが、舞台の前は期待に目を輝かせた少年少女たちで一杯でした。担当の科学コミュニケーターの合図で ASIMO が登場すると大きな拍手がわき起こり、ASIMO はまずお辞儀をして丁寧な自己紹介をしました。そして、早足での歩行やサッカーボールを蹴って観客代表に受けてもらうデモ、更に観客と一緒にダンスをするなど、見ている子供たちをすっかりとりこにしてしまいました。実演の間には日本のロボット技術とその応用の紹介もありました。実演終了後、我々は技術革新の原動力となる「ものづくり」、未来のくらしを示す展示「2050年くらしかたたち」などを見て、回廊を経て5階へ移動しました。5階は、「世界をさぐる」ゾーンです。「私たちはなぜ今、ここに存在しているのでしょうか？ 宇宙や太陽系、地球環境、そしてそのなかで育まれる生命など、私たちをとりまく“世界”的なしくみを、さまざまなスケールでさぐる」ゾーンです。宇宙、太陽系、地球、地球環境、生命、人間、医療などのテーマが展示されています。ここでは、宇宙へ人工衛星を打ち上げる大きな LE-7A エンジンや、日本の誇る有人潜水調査船「しんかい6500」の実物大模型などが見られます。また、地球をテーマにした展示に「高感度地震観測網」があります。そこでは、日本全国 800カ所に埋められた地震計からのデータが見られます。この展示を見ると、我々の住む日本がいかに地震の活発な地域であり、それを理解して防災に努めることの重要性を認識させてくれます。全ての展示が、第一線で活躍する科学者、技術者の監修で制作されており、大人にも十分楽しめる展示がされており、大変勉強になる所であることが実感できました。そうこうしている内に、毛利館長とのお約束の面談時間となってしまい、会議室へ移動しました。すぐに毛利館長が来て下さり、尾崎さんとキト以来 13 年ぶりの再会を喜び合いました。その後 2000 年以降、毛利さんは宇宙飛行士からこの未来館の館長就任、尾崎さんはエクアドルを離れ娘さんの居られる米国への移住、そしてオーストラリア中継での日本語放送再開とお互いの人生に大きな変化がありました。しかし、元気に東京で再会出来たことはこの上もなくうれしいことです。毛利館長には多くの貴重なお話をうかがわせてもらいました。



サタデー・トーク

バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 每週土曜日放送		淀橋教会 峰野龍弘主管牧師 每週日曜日放送	
10月 5日	サボテン日記 スポーツ談義	10月 6日	聖書遊覧バス：箴言 21 章
10月 12日	赤道における宇宙飛行士（2）	10月 13日	お便り交換の時間
10月 19日	続アメリカ新発見の旅（ハロウィーン）	10月 20日	聖書遊覧バス：箴言 23 章
10月 26日	マリンバの調べ	10月 27日	聖書遊覧バス：箴言 29 章

放送後の番組は、ホームページ(<http://reachbeyond.chowder.jp>) のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3 形式）

